



皆さまの検査室として ご利用ください

放射線診断科

達 宏樹



放射線診断科は、CTやMRIなどの画像診断や、IVR（インターベンショナルラジオロジー）を主な業務としています。年間でおよそCT25000件、MRI5000件、核医学検査900件の読影と約30件のIVRを行なっています。

院内の患者さんの検査だけでなく、地域の皆様からの紹介でも画像検査を行なっています。

患者さんは簡単な問診と検査説明のみで検査を受けていただくことができ、ほとんどお待たせすることなく画像検査が可能です。

施行可能な検査は、頭部や胸部、腹部、脊椎、関節など各部位のCTやMRI、骨シンチグラフィや脳血流SPECTなどの核医学検査、腹部や甲状腺、乳腺などの超音波検査、マンモグラフィ検査、骨塩定量検査（骨密度測定）などがあります。

CT・MRI検査では2名の放射線科専門医により読影を行い、レポートをお渡しした

します。核医学検査は週に2回、核医学専門医による読影レポートを作成

します。超音波検査は臨床検査技師・診療放射線技師が検査を実施します。

読影レポートと画像データは原則当日お渡しし持ち帰っていただきますので、診療にお役立てください。健診異常（胸部異常陰影・検査値異常など）の精査や、慢性疾患の定期検査、術後のフォローアップなどにご活用いただければ幸いです。

また、各診療科と連携し、IVRによる肝細胞癌の治療や、子宮筋腫の塞栓術による出血コントロールなども行なっています。適応の確認等には専門科の診察が必要ですので、それぞれ消化器内科や産婦人科へご相談ください。

研修・講演・学習会のご案内



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日時：7月9日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

1）症例検討

『小児の歯ブラシによる外傷』

歯科口腔外科 朽名 智彦

2）ミニレクチャー

『蜂窩織炎の診断と適切な抗生剤選択』

皮膚科 東 晃太郎

蜂窩織炎は皮膚軟部組織感染症の一種であり、真皮深層から皮下組織にかけて炎症が生じ、境界不明瞭な紅斑・局所熱感・腫脹および疼痛を認める。水疱や膿瘍を形成したり、発熱、頭痛、悪寒、関節痛などの全身症状を伴うことがある。またリンパ管炎や所属リンパ節腫脹を合併し、病変部から中枢側へ線状発赤を認めることがある。微小な外傷、足爪白癬、毛包炎など皮膚バリアが破綻した箇所が細菌の侵入門戸になる。蜂窩織炎は血液培養、創部培養での原因菌が実臨床では特定困難であることが多いが、原因菌が特定された症例では黄色ブドウ球菌、β溶血性連鎖球菌が大半である。ときに炎症の主座が皮下組織から浅筋膜にまで到達し、敗血症や壊死性筋膜炎を発症することがある。壊死性筋膜炎は、紫斑・血疱などの皮疹を初期に認めることが多く、数時間

単位で急速に壊死性変化や潰瘍が出現し、全身状態が悪化するため、迅速な診断を行い、デブリッドマンや広域抗生剤の投与が必須である。

蜂窩織炎は皮膚科関連の入院理由として最も多いが、皮膚科医に限らず、様々な診療科の医師が入院中の患者や外来診療・救急治療室などの現場において遭遇する機会があるだろう。現に近隣の内科クリニック等から蜂窩織炎の患者を紹介していただくことは有り難いことに非常に多い。ただ紹介される患者の中には蜂窩織炎ではない方が混在していたり、不適切な抗生剤が導入されている症例が時折散見される。そのため診療科を問わず、蜂窩織炎の診断、壊死性筋膜炎の兆候、皮膚軟部組織感染症に対する適切な抗生剤選択について学ぶことには意義がある。

予告

※8月の地域連携症例検討会の開催はありません。

9月の予定は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

日時：9月10日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当） 消化器内科

②ミニレクチャー 1題（担当） 泌尿器科

2. 腎臓病教室

日時：10月31日（木） 13：15～15：30

場所：当院3階 301会議室

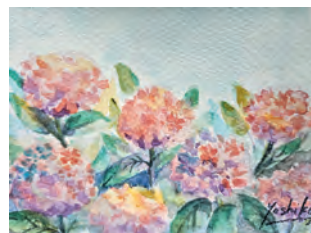
腎臓病教室に関するお問い合わせは、内科外来までご連絡ください。

3. 糖尿病研究会

日時：7月18日（木） 17：45～18：30

場所：当院4階 403号室

テーマ：リブレ2について



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

看護師の特定行為について

感染管理認定看護師 平野 規久

特定行為とは、保健師助産師看護師法に位置づけられた制度であり38行為が定められています。特定研修を修了した看護師は、作成した手順書により診療の補助として、特定行為を実施することができるようになり、患者へよりタイムリーな介入ができるようになります。

私が修了した分野は「感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与」という分野です。これは患者に発熱などの症状がある場合には、その他の身体症状や病歴などから感染症などが疑われる場合は、追加の検査をして必要な抗菌薬を選択するというものです。

当院は急性期の病院であり、多くの場合は医師がすぐに診察できる状況にあるため、この分野の特定行為を実施する機会は多くありません。しかし夜間や休日などで主治医が不在の場合に急な発熱などの症状がある場合は、特定行為を実施できる場面があります。実施する場合は、研修で学んだ臨床推論やフィジカルアセスメントを活用して身体症状や病歴を聴取し、必要な検査を実施、そして検査結果を含め医師へ報告します。特定行為を実施することで、これまでよりスムーズな流れで必要な治療を行うことができるようになります。しかしまだまだ実践が少ない状態ですので、今後はさらに活動の場を広げるように自己研鑽を行いながら活動していきたいと考えています。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

7月

科 名	医 師 名	不 在 日	科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	浅 野	1日、2日、17日	整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	重 本	19日、26日、29日
外 科	宮 下 知	19日	産 婦 人 科	岩 井	25日
	名 倉	29日		島 田	23日、24日、26日
	中 村	17日、18日	小 児 科	仲 岡	29日、30日
麻 酔 科	松 浦	18日	耳 鼻 い ン コウ 科・ 頭 頸 部 外 科	児 島	24日
	津 田	29日		杉 本	2日
形 成 外 科	稲 垣 洸	11日、12日	歯 科 口 腔 外 科	寺 島	1日、16日、17日、18日 22日、23日、31日
皮 膚 科	東	11日、12日		朽 名	4日、5日、10日
	服 部	4日、5日		石 坂	1日
脳 神 経 外 科	新 田	2日、3日	呼 吸 器 ・ 血 管 外 科	湖 東	11日、12日
				土 岐	19日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

街の木々も色濃く美しくなる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。先日、もうすぐ6歳になる息子のランドセルを選びに行ってきました。多彩なランドセルが並ぶ中、息子が選んだのは赤色のランドセル。本人の納得のいく物にしようと思っていたのですが、親としてはつつい黒や紺などの無難な色を薦めてしまいます。最近のランドセルはカラーバリエーションが豊富ですね。保守的な考えは捨て、子供の思うように挑戦してみることも必要かと悩むこの頃です。

ふれあい地域医療センター 南 真菜美

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

